ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

学校名	青森県立青森第一養護	学校

授業について	教科領域名 （✓又は■で記入する。）	□国語　□社会　□算数・数学　□理科　□外国語・外国語活動　□生活　□音楽 □図画工作・美術　□体育・保健体育　□技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 □特別の教科　道徳　□総合的な学習（探究）の時間　☑日常生活の指導 □生活単元学習　□作業学習　□遊びの指導　□特別活動　☑自立活動 □その他（　　）
	単元(題材)名	iPad で伝えよう
	単元(題材)の目標	「ドロップトーク」を使い、教師に挨拶をする。
学習集団と実態	学部・学年・人数	中学　部　1　年　1　人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	※個別学習の場合は、個人の本単元（題材）における主な実態を端的に記入する。 ・筋緊張や不随意運動があり、細かな作業が難しい。 ・理解している言語は多く、教師が話す内容をおおよそ理解していると思われる。 ・発語がないが、言葉にならない声を出すことがある。 ・肘や手首を支える等の援助があれば筆談ができる。また、提示された選択肢から自分の考えていることに近いものを選ぶことができる。身振りやサインで要求できる。これらが現在の主なコミュニケーション手段である。
ＩＣＴ活用について	使用した支援機器・教材の名称	※使用した ICT 機器（入出力支援装置等）名を記入する。 iPad、プロジェクター、トーキングブリックス
	使用したアプリケーションの名称	※使用したアプリケーション名を記入する。 平仮名ボード、ドロップトーク、とびだす動物タッチ、動物タッチ、Keynote アプリマーク
	主な活用の用途 （✓又は■で記入する。）	（複数選択可能） ☑コミュニケーション支援 □活動支援（□情報入手支援　□機器操作支援　□時間支援） □学習支援（□教科学習支援　□認知発達支援　□社会生活支援）
	ＩＣＴ活用のねらい	発語を代替するコミュニケーション手段を身につけること及び本人が楽しくコミュニケーションや機器操作をするための関心を引き出すこと
活用の状況と支援	活用の状況と支援	※ICT 活用場面と行った支援について記入する。 ・iPad を生徒が使う際には、化粧用のパフをタッチペンに付け、握りやすくした。 ・対面でのコミュニケーション練習のため、その前段階として、Keynote に複数の身近な教師の語りかけと応答の動画を取り込み、生徒の反応によって変化するスライドをプロジェクターに映した。 ・自立活動で勉強したことを、登校時の玄関での挨拶や日常生活の指導で活用した。